

桜溪

芳井中
学校だより
5月号

新しい学びのかたち

今年度から、一人一台端末を活用した教育の実現に向けた「DIGAスクール構想」がスタートしました。

本来ならば、国は令和五年度までにタブレット端末等の整備を順次進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、



3年生理科の授業の様子 (4/30 校内研究授業)

catch up 4・5 月

4/13 (火) 部活動紹介



1年生に向けて、各部が工夫を凝らした部紹介を行いました。現在は、1年生も本格的に活動が始まっています。

4/28 (水) 参観授業

4/30 (金) 校内研究授業

5/6 (木) マナー講座 (2年生)



笠岡商業高校の先生と生徒の方をお招きして、挨拶の仕方や敬語の使い方等を指導していただきました。

<生徒の感想>

・先言後礼を褒められてよかった。普段から姿勢や表情を意識して挨拶などができるようになりたいと思った。

一人一台の「タブレット」

計画の大幅な前倒しがなされました。それはつまり、必要に応じて臨時休業等が行われるようになった場合に備え、児童生徒の学びを保障するための、遠隔・オンライン教育といった新しい教育様式を整える必要が生じたためです。

本校では、この四月から生徒一人一台のタブレットを配付しましたが、最近ではほぼ毎日、授業等で活用がなされています。例えば理科では、グループ毎に実験結果をデジタルホワイトボードにまとめ、それらを学級全体で共有することで活発な意見交流を生み出し、新たな気づきを得たり、理解を深めたりすることに役立るといった試みがなされています。また、社会科では既習事項の確認を行うために、アンケートフォームを利用しており、瞬時に生徒の実態を把握しながら授業を展開するといった工夫がなされています。



アイデア次第で様々な用途に活用できる可能性を秘めたタブレットですが、あくまでも学習

ありがとうございました

道具の一つであり、タブレットを使うこと自体が授業の目的ではありません。中学校が目指すのは、「主体的・対話的で深い学び」の実現です。この目的を達成するのに相応しい活用の仕方を、今後も探究していきたいと思えます。

生徒は、登校するとタブレットを保管庫から取り出し、教室に持って入ります。その後の教室移動の時にも、タブレットを持って動きますが、その際にとっても役立つているのが、布製の手提げバッグです。このバッグは、井原市社会福祉協議会様から寄贈していただいたもので、今や学校生活になくてはならない必需品となっています。

大切にに使わせていただきます。

